

親鴨会 2022年7月メッセージ「時の区切り」

今年もあつと言う間に一年の半分以上が過ぎてしまいました。コロナ禍、ウクライナ侵攻、酷暑といった収束が見えない日々は続いています。親鴨会活動は段階的に対面の行事を再開し始めました。ワクチン接種の確認や当日の健康状態に気を配りながらの「街歩き」、「新会員懇親会」、「新川崎の基礎研究所の量子コンピューターの見学」など、対面ならではの皆さんとの対話を楽しんでいます。

個人的な話ですが、この6月末でお金をいただく仕事を終らせて、一区切りつけました。永きに亘った仕事生活を健康にやりきれたことに感謝と安堵の思いが湧いてきます。

ふと、人生で最初に仕事をしてお金をいただいた経験を思い出しました。大学入学早々に始めた家庭教師です。小学校のクラス担任だった恩師から高校受験を控えた中三男子の家庭教師をしてくれないかとの依頼がありました。教え始めて見ると、予習、復習、宿題もしっかりこなす優等生でした。逆にその真面目さが心配で、勉強の前に気分転換のキャッチボールをしたりしていました。お母さんからは「内池君、野球やるためにお金払ってないから」と怒られたりしましたが、志望校の都立高校と某大学付属高校の両方に合格。まさに本人の能力と努力の賜物です。

多少なりとも、応援と気分転換でお役に立てたのではないかと勝手に考えている大満足の思い出です。そして、毎月の月謝は全てジャズレコード購入費用になり、その輸入盤LP達は今も我が家で健在です。こんな区切りでもなければ、思い出さない記憶です。

ところで、皆さんの人生最初の仕事は何でしたか？

親鴨会 会長
内池 正名